

藤沢市

旗振りハンドブック



目次

◇はじめに	1
◇旗振りの仕方	
・ 服装	2
・ 注意点	3
・ 誘導者の立ち位置	4
・ 誘導者の配置	5
・ リーダーと補助者	6
・ 児童が集まってきたら	7
・ 横断旗を出すタイミング(信号あり)	8
・ 横断旗を出すタイミング(信号なし)	9
・ 横断旗の出し方(振り方)	10
・ 児童を渡らせる	11
・ 解除(戻し)の仕方	12
・ 追突防止	13
・ その他	14
◇参考資料	
・ 子どもの特性	15
・ 事故対応	16

はじめに

日頃から、子どもたちの交通事故防止にご協力いただきありがとうございます。

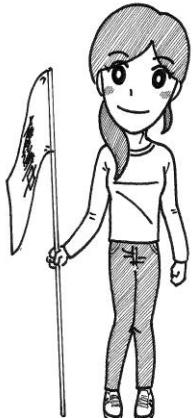
このハンドブックは、通学路において、横断旗を使って誘導する際の注意点や、横断旗の使い方などをまとめたものです。

皆様の誘導は、その場の安全を確保するだけでなく、子どもたちの将来にわたる交通安全行動にもつながっていきます。

悲惨な交通事故を無くすため、ご協力くださいますようお願いいたします。



服装



動きやすい
服装で誘導
しましよう



手が塞がるものや、
咄嗟の行動がとれない
ものは避けましょう

服装・持ち物などに注意しましょう

動きやすい服装で誘導しましょう。

サンダルやヒールのある靴などは避けましょう。また両手を使いますので、荷物は手に持たないようにしましょう。

雨の日は傘をさしての誘導はせず、レインコートを着用して誘導しましょう。

乳児や幼児を連れての誘導はやめましょう

乳児や幼児に気を取られ、誘導に集中できなくなってしまいます。おひとりで誘導できる日程を調整しましょう。

注意点



車を強制的に止める
権限があるのは警察だけ



飛び出すかも



大きな声ではっきりと

□ 横断旗には車を止める強制力はありません

運転者に対して、止まるように指示を出すことはせず、協力を求める姿勢で臨みましょう。お互い気持ちよく児童を安全に通学させましょう。

□ 子どもは飛び出します

子どもは低学年ほど飛び出す傾向にあります。また、子どもは夢中になると周りが見えません。行動が予測できないので注意を払いましょう。

□ 大きな声と動作で児童を誘導しましょう

誘導者がはっきりとした指示を出さないと、渡っていいのか、いけないのか児童が混乱し、交通事故につながる可能性があります。

誘導は、大きな声ではっきりと「渡っていい」「渡ってはいけない」を伝えましょう。

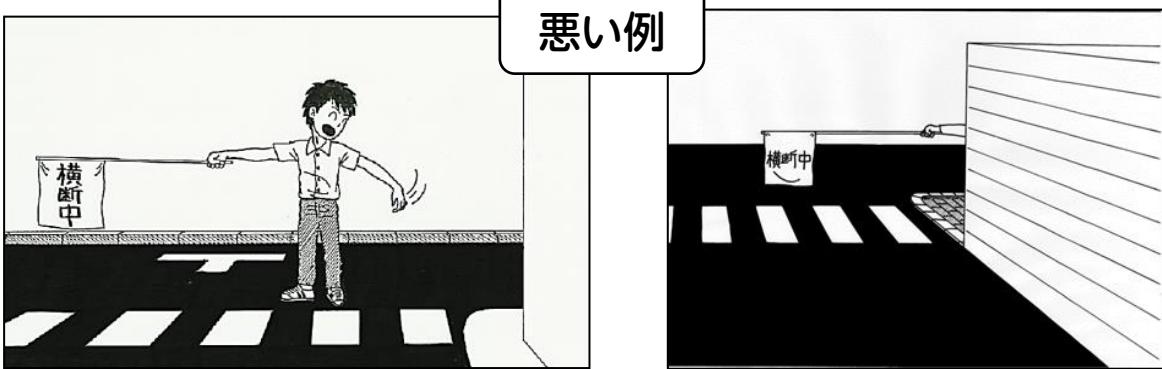
誘導者の立ち位置

良い例



歩道上・路側帯の内側
から旗を出しましょう

悪い例



横断歩道上で誘導するのは危険
なのでやめましょう

急に旗だけが出ると運転者が慌てて
事故になる可能性があります

□ 安全な場所に立ちましょう

横断歩道上に出ると、車や自転車と接触する危険があります。
歩道上または路側帯の内側など安全な場所で誘導しましょう。

□ 運転者から見えない場所は避けましょう

電柱や看板、壁の裏に立つと、運転者が、誘導者や横断旗の存在に気付きにくいので、運転者からよく見える場所に立ちましょう。

□ 通行の妨げにならないようにしましょう

歩道では、歩行者の往来に気を付け、通行の妨げにならないようにしましょう。子どもたちにも、通行の妨げにならないよう待ちよう伝えましょう。

誘導者の配置

リーダーと補助者は対角線上に立ちましょう



□ 二人一組で誘導しましょう

誘導するときは、基本二人一組で行いましょう。一人で誘導すると、片側の車しか止まらない場合があります。また、突然の出来事に咄嗟に対応できないことがあります。

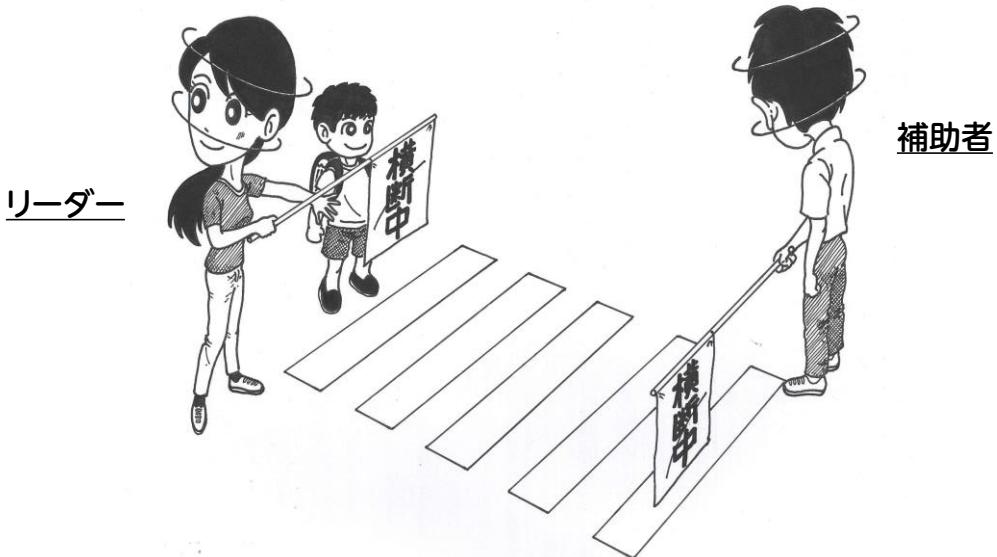
□ 交差点では誘導者を増やしましょう

横断歩道が複数ある交差点や、三叉路、鋭角な道路などでは、児童と車に目が届かなくなることがあります。複雑な道路の場合は、誘導者の人数を増やすことが望ましいです。

□ リーダーを決めましょう

児童が待機する側の誘導者がリーダーとなります。もう一方の方は補助者となり、リーダーの合図に従って横断旗を出してください。

リーダーと補助者



□ リーダー(児童が待機する側)の役割

リーダーは車両の進行状況を十分考慮して横断旗を出すタイミングを決め、補助者に指示を出します。

待機児童が多くなっても焦らず、落ち着いて横断旗を出すタイミングを待ちましょう。

□ 補助者の役割

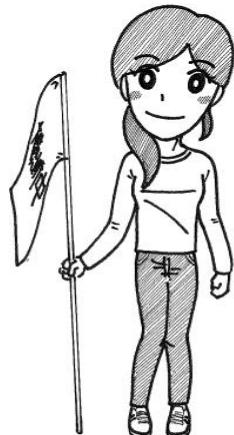
児童が横断歩道に近づいてきたことをリーダーに知らせます。

誘導者はお互いに向き合って誘導しているため、リーダーは児童が後ろから来たことを把握できません。そこで、児童の姿が見えたら、リーダーに児童が来たことを伝えましょう。

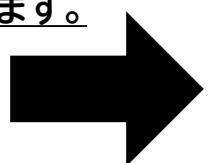
横断旗を出す及び解除する行動は全てリーダーに合わせます。リーダーと同様、落ち着いて横断旗を出しましょう。

児童が集まってきたら

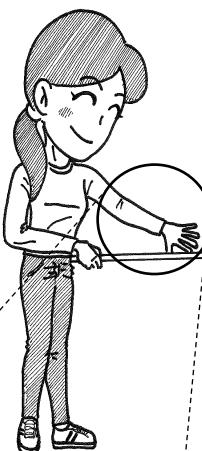
児童がない時



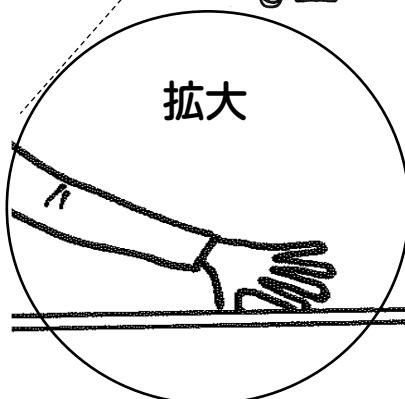
横断旗を立てて、
車道を向いて児童
を待ちます。



児童が来たら



旗を児童の前に出し、
大きな声ではっきりと、
待つことを伝えましょう



手のひらを児童に向けて
止めます

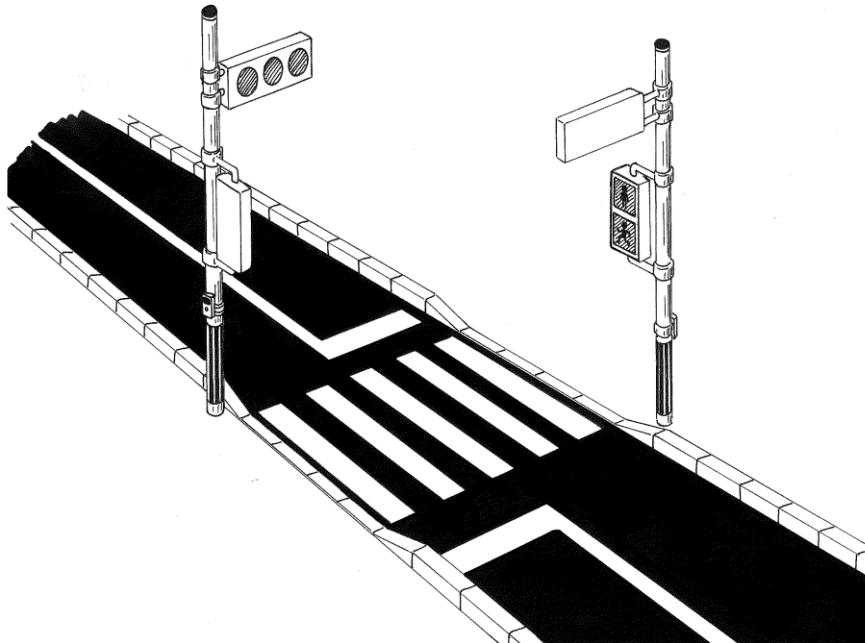
□ 児童が横断歩道に近づいてきたら

補助者は児童の姿が見えたら、リーダーに児童が来たことを伝えましょう。

リーダーは、補助者からの知らせを受けたら、横断旗を右手で持ち、自分の左側に水平に出します。左手のひらを児童に向け、児童を止めます。

この時、児童に大きな声ではっきりと待つことを伝えましょう。

横断旗を出すタイミング (信号機のある場合)



□ 信号機のある横断歩道では信号に従いましょう

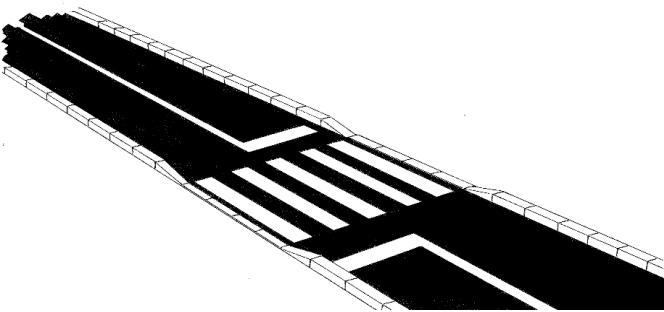
信号機のある横断歩道では、歩行者用信号が青になり、安全確認をした後、横断旗を出しましょう。

青の点滅信号で児童を横断させてはいけません。

□ 青信号でもすぐに渡らせないようにしましょう

信号が青に変わったからといって、すぐに渡らせず、安全確認をしてから児童を渡らせましょう。

横断旗を出すタイミング (信号機のない場合)



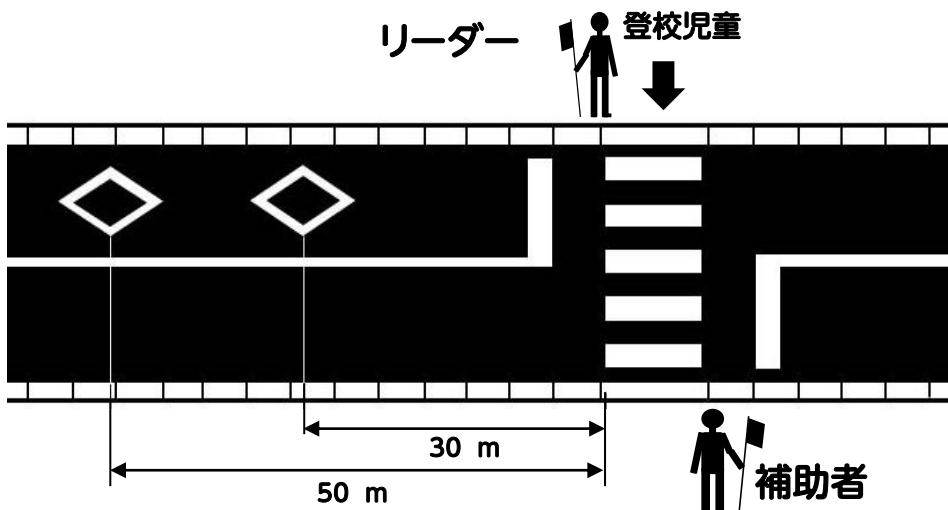
□ 車の停止距離に十分考慮し横断旗を出しましょう

信号機のない横断歩道では、車が急停車とならないように、50m以上の距離をおいたタイミングで横断旗を出しましょう。

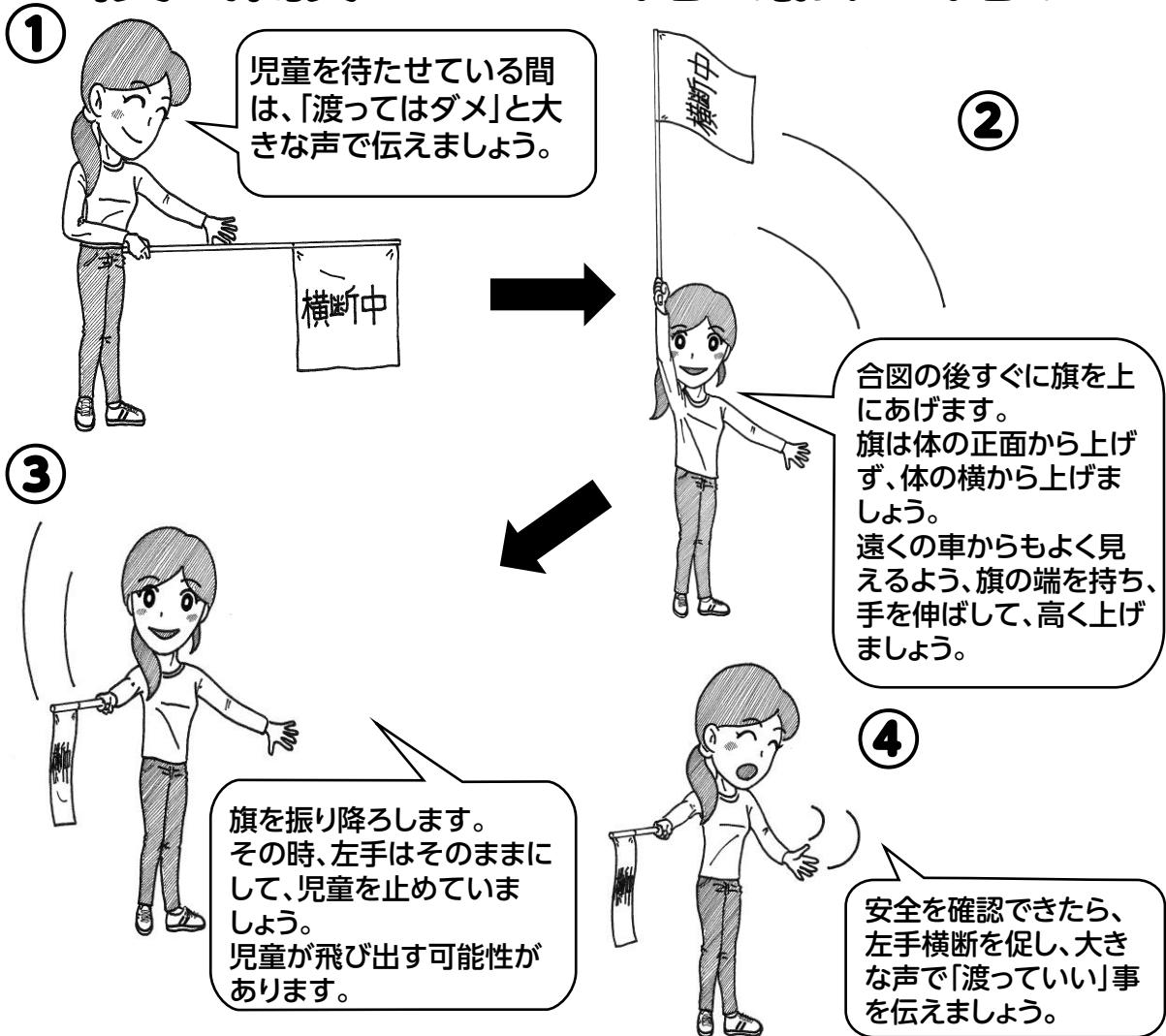
目安としては…

- ・ 電柱 (電柱間隔は約25~30m)
- ・ 路面標示 (前方横断歩道ありのひし形は、横断歩道手前から30mと50mの地点に標示されています。)

※電柱や路面標示がない場合は、ご自身で目印を設定しましょう。大人の平均の歩幅はおよそ60cm~70cmと言われています。横断歩道から100歩程度歩き、周囲にある看板や住宅等を目印に設定しましょう。



横断旗の出し方(振り方)



□ リーダーの合図で、リーダーと補助者は同時に旗を振ります

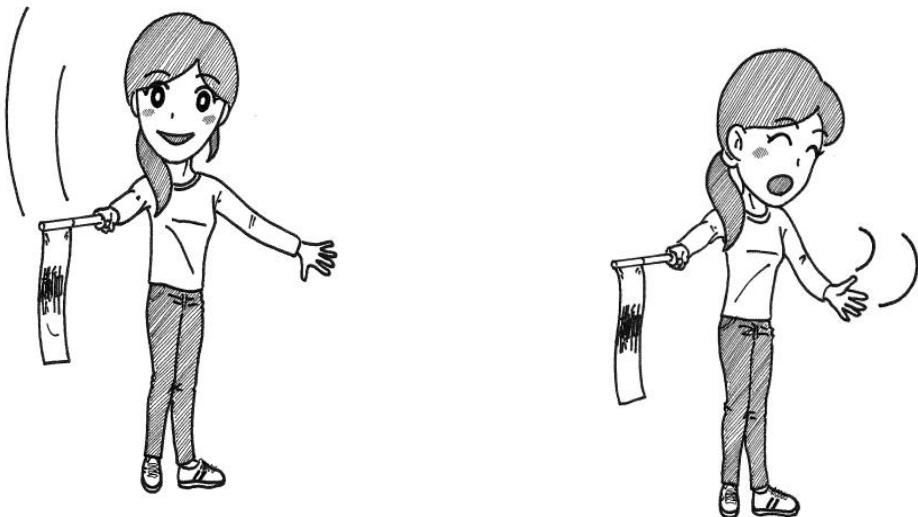
- ① 1で横断旗を真上に上げます。
- ② 2・3で横断旗を振り降ろします。

(三拍子で上げて降ろすイメージです)

□ 横断旗は必ず上にあげてから出しましょう

横断旗を横断歩道に出すときは、必ず上に上げてから出しましょう。上に上げずに、横断旗を突然出すと、運転者が慌てて、事故につながる可能性があります。

児童を渡らせる



旗を出しても、すぐには渡らせません。
安全を確認してから渡らせます。
安全確認できるまでは左手は手のひらを
児童に向け、止ませたままにしましょう。

安全が確認できたら、左手で児童
に横断を促します。
その時、渡っていいことを大きな
声で伝えましょう。

□ 安全を確認しましょう

リーダーは、車が止まり安全が確認できるまで、左手を解除しないでください。横断旗が出ると児童は渡って良いと思い、飛び出してしまう可能性があります。

児童には、渡っていいのか、ダメなのかはっきり指示を出しましょう。

□ 児童を焦らせないようにしましょう

信号が点滅しているときや、車が待機している場合でも、児童を急かさないようにしましょう。転んでけがをしてしまう危険があります。

解除(戻し)の仕方



横断旗を解除するときは、これから渡ろうとしている児童がいても、左手で横断を止めましょう。

□ 安全を確認してから解除しましょう

横断旗は児童が安全な場所(歩道・路側帯など)に渡りきるまで解除しません。

リーダー・補助者同時に解除します。どちらか片方が先に解除することはしないでください(児童が向きを変えて戻ることがあります)。

□ これから渡ろうとする児童は止めましょう

横断旗を解除する前には、これから渡ろうする児童は、左手で止めましょう。その時、大きな声で「次の青信号になるまで待とうね」「次に渡れる時まで待とうね」などと声掛けをしてください。

これから渡ろうとする児童が横断歩道の前で待機し、横断歩道を渡っている児童が完全に渡り切ったことを確認した後、解除してください。

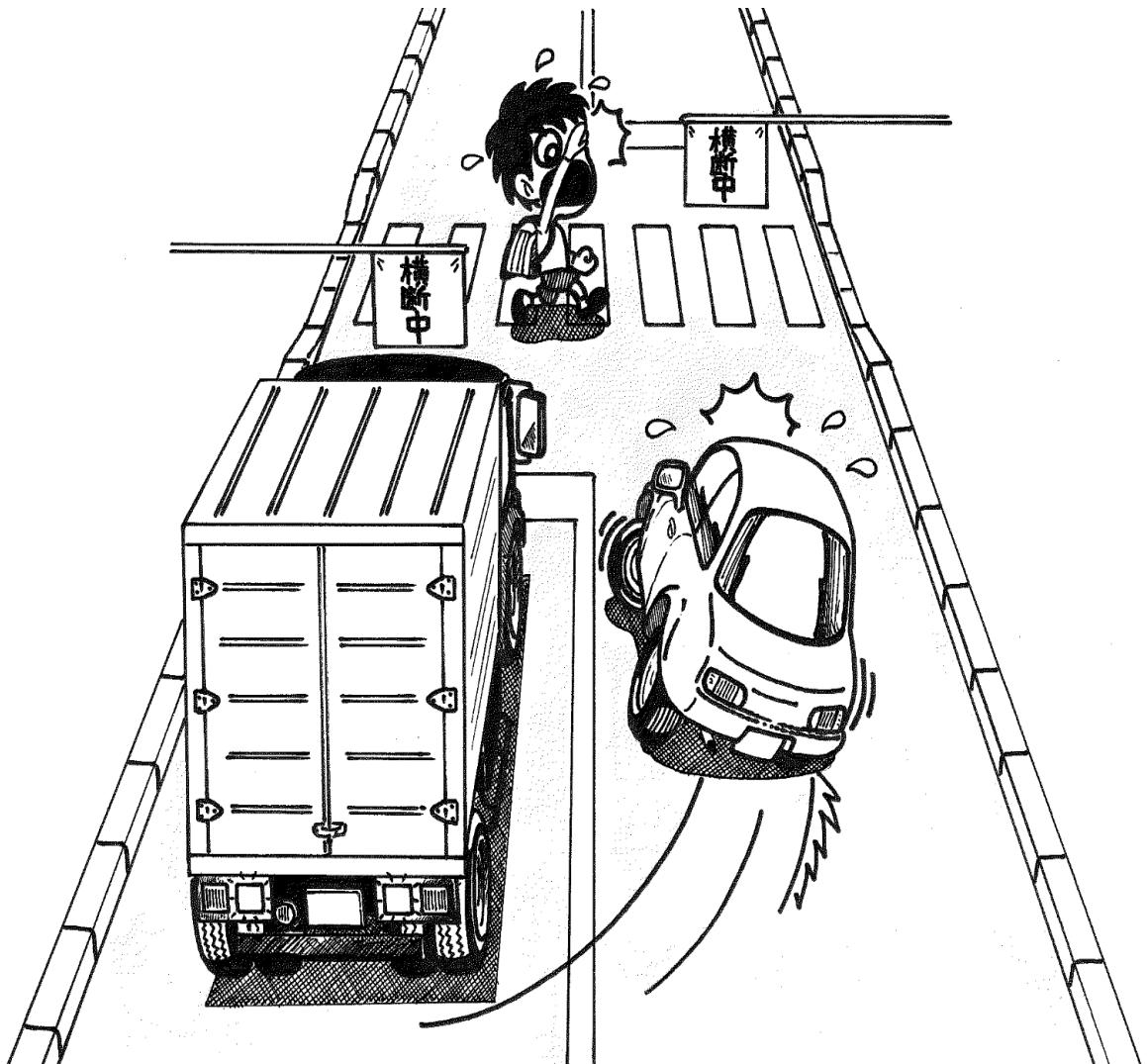
□ 横断旗を水平に戻します

解除するときは、横断旗を水平に戻します。

□ お互いに気持ち良く

止まっていた先頭のドライバーに対して感謝の会釈をして、お互いに気持ちの良い街頭誘導を行いましょう。

追突防止



□ 前方の確認ができる車を止める

大型車(トレーラー・バス・貨物車など)は、あえて止める必要はありません。後続車が、大型車が駐車・停車していると思い、追い抜き・追い越しをして、事故につながる可能性があります。

大型車等が止まってくれた場合は、後続車も含め、十分に安全を確認してから児童を渡らせましょう。

その他



□ 地域の方と協力しましょう

旗振り活動は、児童・生徒の保護者の方々を始め、交通指導員や、地区の役員の方々など、様々な方のご協力をいただいております。同じ場所で誘導をすることになった際は、お互いがが気持ち良く誘導できるよう、ご協力をお願いします。

□ 誘導に不安を感じたら

旗振りの仕方について、不安に感じることがありましたら、管轄の警察署（藤沢警察署・藤沢北警察署）もしくは藤沢市役所防犯交通安全課までご連絡ください。

また、旗振り講習については藤沢市役所防犯交通安全課までお申し込みください。

（ご連絡先）

藤沢警察署 0466-24-0110

藤沢北警察署 0466-45-0110

藤沢市防犯交通安全課 0466-50-8250(直通)



(参考)子どもの特性

児童の発達段階によって、危険予測能力や危険回避能力には差があることを理解してあげることが大切です。

□ 一つのものに注意が向くと、周りが見えなくなる

道路の向こうに家族や友達の姿見つけると、周りの状況には目もくれず、飛び出してしまうことがあります。

□ 抽象的な言葉では理解できない

「手をあげる」「左右を見る」と指導しても、子どもは理由まで理解できず、手の位置が低かったり、ただ漫然と首を振るだけになってしまいます。

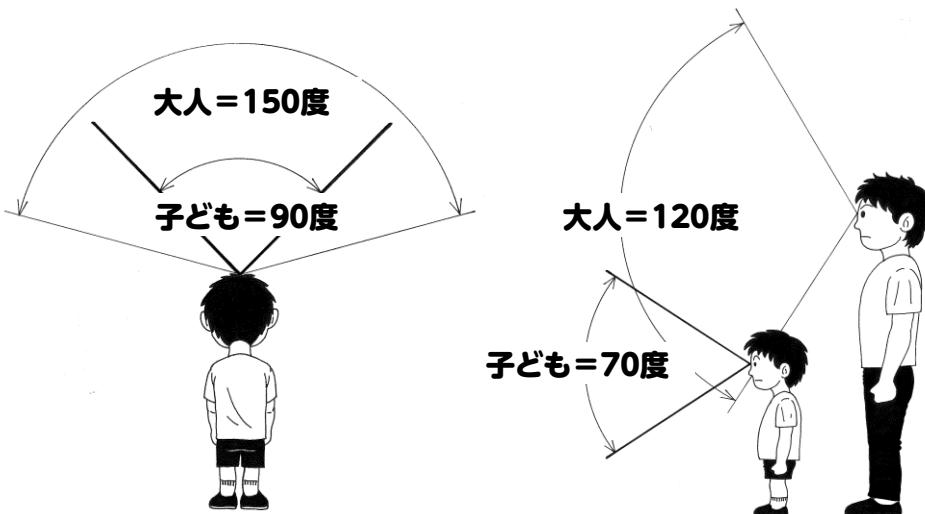
□ 子どもの視野は狭い

子どもの視野は、大人の3分の2割程度といわれています。そのため、近づいて来る車やバイク、自転車の存在を確認できずに飛び出してしまうことがあります。

●視野の違い(子ども6歳児程度)

左右(水平) 大人 150° 子ども 90° (大人の60%)

上下(垂直) 大人 120° 子ども 70° (大人の58%)



(参考)事故対応

□ 状況を判断しましょう

事故が起きた場合は、慌てず落ち着いて行動しましょう。

事故の状況を確認して、二次災害が発生しないように児童を安全な場所に避難させましょう。また事故に遭った方の誘導や、必要に応じて救急車の要請をしましょう。

警察への連絡や、学校への連絡も忘れずにします。

誘導は基本二人一組で行いますが、一人体制の時などで対応が難しい場合は、近くの方に救急や警察に連絡してもらうよう助けを求めましょう。

□ 負傷者がいる場合

負傷者がいる場合は、何よりも救護が優先です。安全な場所に移動させ、ケガの様子を確認して、救急車(119番)が必要な場合は要請します。

□ 警察へ連絡

負傷者の対応後は、すぐに警察(110番)へ連絡し、次のことを伝えましょう。

- ・事故発生の場所
- ・負傷者の有無およびケガの程度
- ・事故の状況

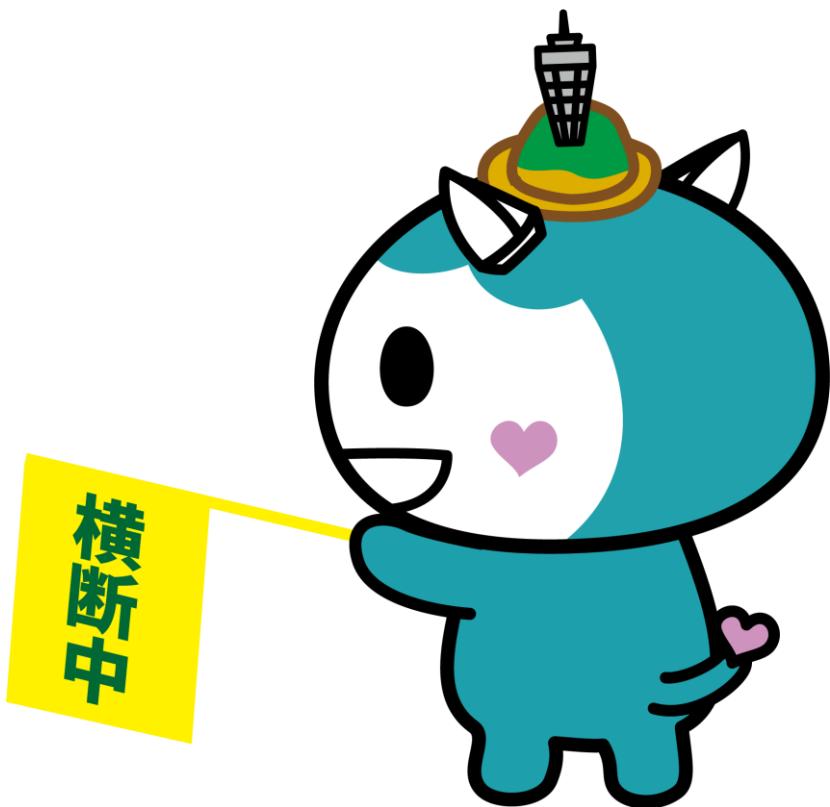
その他に、事故が起きた際に、どういった対応をしたかを覚えておきましょう。

□ 学校へ連絡

事故の大小に関わらず、速やかに学校に連絡をしてください。児童が負傷した場合は学年と名前を確認しておいてください。

* MEMO *





「キュンとするまち。藤沢」
公式マスコットキャラクター ふじキュン♡

2026年(令和8年)2月1日作成